

プラットフォーム の名称	コホート・生体試料支援プラットフォーム
研究期間	平成28年度～令和3年度
研究支援代表者	村上 善則 (東京大学・医科学研究所・教授)
研究支援代表者 からの報告	<p><u>(1) プラットフォームの目的及び意義</u></p> <p>本プラットフォームの目的は、以下の3点です。1) 日本人一般集団約13.5万人のコホート研究(*) データおよびDNA等の生体試料を系統的に収集・安定保存し、これを日本人の体質に応じた個別化予防・医療の創出に向けた研究に広く活用すること。2) 倫理面に十分配慮した上で、いただいた死後脳をリソースとし、精神・神経疾患の解明を目指した研究支援のための、日本ブレインバンクネットワークの構築と、それらの運用促進に注力すること。また、3) 多彩なヒト生体試料を用いた生体内分子動態や生体指標の高感度解析支援を、豊富な試料・情報の収集・提供と独自の高度技術で行い、疾病の原因探索、診断・治療に貢献すること。</p> <p>いずれも、大切なヒト試料を扱うことから、倫理面と、「十分な情報提供と合意」には時間をかけ、機関の委員会等で詳細な審議のうえ理解を得られた場合に限り、生体試料として研究に使用させていただくよう、厳格に運用しています。</p> <p>極めて多数のバイオリソースを使用する支援を行うことにより、がん、糖尿病、高血圧、痛風等の特徴を知ることになり、診断・治療のみならず、予防にも役立てることが可能となります。また、様々ながん、認知症や神経難病等の原因解明や新たな治療法の開発にもつながることが期待されます。</p> <p>(*コホート研究：特定の要因に曝露した集団と曝露していない集団を一定期間追跡し、研究対象となる疾病の発生率を比較することで、要因と疾病発生の関連を調べる)</p> <p><u>(2) 研究支援活動の進展状況及び成果の概要</u></p> <p>コロナ禍の令和2年度以外は毎年実施された生命科学連携推進協議会主催の4プラットフォーム合同の支援説明会、成果シンポジウム、パネルディスカッション、ならびに、協議会や本プラットフォームのホームページにより広く研究者に支援の広報活動を行っています。さらに、本プラットフォームにおいては、国民の皆様の本支援へのご理解をいただくために、市民公開講座や市民公開シンポジウムを実施したほか、実験系および疫学研究者を対象としたセミナー「ゲノムコホート研究における遺伝統計学」を毎年実施してきました。</p> <p>平成30年度には、欧米のブレインバンク担当研究者に来日いただき、国際ブレインバンクシンポジウム、そして、国際レトロウイルス学会東京会議2018および国際シンポジウムを開催しました。</p> <p>また、日本分子生物学会、日本生化学会等10学会では、パネル展示による支援の説明や支援者との相談等きめ細かに周知をしています。また、コロナ禍中の令和2年度、令和3年度には、24学会の特設サイト等にバナー広告を掲載し、さらには、支援活動紹介および支援内容の動画を作成して、協議会ホームページに掲載する等、広報活動を積極的に実施しました。</p> <p>さらに、支援の利用者のニーズを把握するため、令和元年度より満足度アンケート</p>

	<p>を実施し、要望等は本プラットフォーム内にフィードバックし対応した他、アンケートの結果を本プラットフォームのホームページに掲載し、公表しています。</p> <p>本プラットフォームによる支援の成果は、600 報を超える学术论文として発表されています。平成 28～令和 2 年度の成果のリストは、本プラットフォームのホームページ上の成果論文リストに掲載しています。さらに、代表的な研究成果 12 報については、その解説文とプレスリリース情報を掲載し、公開しています。</p>
<p>科学研究費補助金 審査部会における 所見</p>	<p><u>A (プラットフォームの目的に照らして、期待どおりの成果が認められるため、今後も学術研究の更なる発展への貢献が期待できる)</u></p> <p>本プラットフォームでは、コホート支援、ブレインリソース支援、生体試料支援の体制を確立し、大規模なコホートデータを広く研究者コミュニティに提供するとともに、先端技術に関する支援を組織的に行ってきた。それぞれの支援件数は当初の目標を大きく上回っており、被支援者による発表論文の実績も良好であることから、本プラットフォームの目的に照らして期待どおりの成果が上がっていると評価できる。</p> <p>一方で、コホート・生体試料を有する研究機関以外からの応募がまだまだ限定的であることや、科研費に採択されている外国人研究者への支援が少ないことがうかがえる。英文版サイトを立ち上げる等の工夫は見られるが、今後、外国人研究者への支援の拡充を含め、広く利用の拡大を図ることが期待される。</p> <p>引き続き、国内の他のコホート関連事業とも連携を図りながら支援活動に取り組んでいただきたい。</p>